

淨土論註總索引

INDEX TO THE JŌDORONCHŪ

序

往生浄土の願を大乘の佛道體系の上に基礎づけられた世親の浄土論に對し、北魏の曇鸞は論註二卷を著して、その願生心は凡夫の一心であることを明らかにせられた。宗祖親鸞によって開顯されたわが本願念佛の教がこれに基づく以上、古來の浄土教家なかんずく浄土眞宗の學者が擧げてこれを研鑽したことは當然で、その注釋書、研究書の數はまさに汗牛充棟と云つてよいほどである。

しかるにこの論註は宗義學上の聖教であると同時に中國思想史上の光彩であり、ひとり佛教學者によってのみ獨占されるべきものではない。これによって曇鸞の信仰及び學問の基盤を中國古典の上に見出し、且つその地位を思想史全般の中で位置づけようとする動きは、近代の東洋學者の間にも芽生え、殊に老莊思想との關連に注目する研究成果はこれまでもないではなかつた。

思うに宗義學の研究は、深く究めて透徹を期さねばならぬ。これに對し、思想史の研究は、廣く探つて漏れるところのないことが要求される。従つて兩者は、研究の態度、方法において相互に特色を有し全同でないのは明らかである。曇鸞の浄土論註が思想史家一般にとって大いに着眼されるためには、おのずからその道を開く準備が必要となることはいうまでもない。今ここに世に送ろうとする本書は、その意味において些か寄與することができたならばと、ひそかに念願するものである。

わが眞宗教學研究所は發足以來いまだ日淺く、それより前に別に教學研究所と稱する研究機關があつた。本書はもとその教學研究所に在つた諸氏が、廣い視野から浄土論註の研究を企圖せられ、その努力によって成し遂げられ

た成果の一つである。多大の勞を費された結實であることを認めねばならぬ。

特に本書の成るために、京都大學人文科學研究所福永光司教授と同川勝義雄助教授との兩教授の力が甚だ大きかったことを銘記しなければならぬ。兩教授は御専門の中國思想史の領域から、多年に亘って教學研究所において淨土論註の研究を指導せられた。別して従來の形式による論題的索引とは異なる新しい網羅的一字索引の必要を説き、その索引の製作に終始懇切な教示を與えられたのである。茲に本書の刊行を見るに當って兩教授に深厚の謝意を表したいと思う。

本書を通じて見出されるであろう新しい眼界は、東洋學の上に新鮮な領域を開拓する端緒となるであろう。そしてそれがまた曇鸞教學の精髓を發揚することに向って、反映し寄與する所あるに相違ない。今そうした念願を懷きつつ、廣く學界、教界に本書の活用せられることを期して刊行の序とする。

昭和四十七年八月

眞宗教學研究所々長

山 口 益

淨土論註總索引作製にあたって

曇鸞の主著『淨土論註』が、中國や日本の淨土教、さらにはまた淨土眞宗の教義や信仰においてもつその重要性については、今さら改めて述べるまでもないであろう。この『淨土論註』を中國人の書いた文章、いわゆる漢文としてできるだけ正確に讀むという讀書の會が、東本願寺の教學研究所で企畫され、それが具體的に發足したのは、昭和42年の秋のことであった。

當時、この讀書會に講師として参加することを依頼された私と川勝義雄氏は、この書を漢文として正確に讀むためには、まず『論註』の「論」と「註」との對應をはっきりさせた新しいテキストの作製、および全文の完全な一字索引の作製が望ましいことを力説して、とりあえず新しい原文テキストが、その年の内に作製された。そして、このたび上梓されることになったこの『淨土論註總索引』は、その時の私たちの要望を引きつづき實現する第二の勞作である。

『淨土論註』を漢文として正確に讀むことは、言うは易くして行なうことは難い。その漢文は多くの佛典の言葉を引用し、深遠な成佛の哲理を辨析することにおいて、一般の漢文とは異なる内容の難解さをもつ。また、その文章表現も講義の草稿を著作として手直ししたのではないかと疑わせる晦澁さをところどころにのぞかせ、明快に句讀を切れぬ屈折した文脈も各所に見られる。索引による語句・助辭の使用例の檢出は、これらの困難をもしばしば大きく緩和してくれるであろう。

『淨土論註』の著者曇鸞は、すぐれた佛教學者であるとともに中國古來の傳統的な學問文藝に對しても廣く豊かな教養をもつ。『論語』や『易』など

の儒家の古典、『老子』や『莊子』や『淮南子』などの道家の古典等をふまえた典雅な思想表現、また『抱朴子』の文章や阮籍の詩句などをさりげなく引用してみせるふくらみのある文章表現などが、そのことを最も端的に示すであろう。この索引の使用はまた、曇鸞におけるこれらの古典的な教養をも語句を手がかりとしてわれわれに確認させてくれるはずである。そしてまた、この索引が文中のあらゆる助辭の使用例を網羅していることも、この時代の言語表現に鋭敏な關心をもつ語學研究者たちに一つの有力な資料を提示するであろう。

この『浄土論註總索引』は、佛教關係の基本的な漢文文獻に對する完全な一字索引としては、私の知るかぎり世界で最初の成果といてよい。この煩瑣な作業に長いあいだ忍耐づよく努力された教學研究所の諸氏に滿腔の敬意を表するとともに、この索引がまた、主要な漢文經典の一字索引をさえまだ完備していない現在の中國佛教學に對し、その現状を打開し飛躍させるための一つの新しい礎石となることを心から念願してやまない。

昭和四十七年七月一日

京都大学人文科学研究所において

福 永 光 司

目 次

序	i
浄土論註總索引作製にあたって	iii
凡 例	v
畫 數 表	vii
浄土論註總索引（音訓索引）	1
あとがき	173

* * *

無量壽經優婆提舍願生偈	1~87
-------------------	------

凡 例

題簽 袁輪英章

凡 例

1. 本索引は『無量壽經優婆提舍願生偈註』（浄土論註）の總ての文字を五十音順に配列、整理した總索引である。

2. 本索引は下記の要領で用いられたい。

例

		頁数	行数	°は同行に二回出る (◎は三回)
法身	无爲○○	10-11	71-9	71-12°
	↓		↓	↑
	法身の二字 をあてる。		ゴチは本文上段 の浄土論の文	

无爲法身という句が、本文10頁11行目、71頁9行目（上段の論の文）、71頁12行目（二回）の四箇所にある。

3. 配列は、五十音順にしたが、その中を更に畫數順とし、同畫數の場合は、部首順にならべた。

4. 發音の相違により一箇所にまとめることが困難な場合は、佛教慣用音によってそれぞれに分類した。

たとえば、「樂」→ラク・ガク・ギョウ
「平」→ビョウ・ヘイ

5. 字音不明の場合は「畫數表」を用いられたい。

淨土論註總索引

ア		阿癡哀愛隘	
阿	○名无	85-8	○○○○○身高 23-10
阿舍	四○○三藏	7-2	○○○○○正覺 40-12
	○○等經	7-3	○○○○○相好 61-10
阿私陀仙人	○○○○○類	21-6	○○○○○本願 65-12
阿闍世王	○○○○	23-8	○○○○○本願力 63-13 75-8
阿修羅	○○○琴	84-8	○○○○○應正遍知 37-9
阿僧祇	无量无边○○○	5-2	○○○○○安樂淨土 42-5
阿難	佛告○○	31-10	○○○○○正覺淨花 54-1
阿耨多羅三藐三菩提	成○○○○○○○○○	22-9	○○○○○清淨本願 57-7
	近○○○○○○○○○	81-10	○○○○○无上寶珠 59-1
	成就○○○○○○○○○	85-4	○○○○○至德名號 61-12
		85-14	○○○○○平等光照 62-2
	名爲○○○○○○○○○	85-6	○○○○○平等意業 62-2
	速得○○○○○○○○○	85-6	○○○○○自在神力 64-2
阿鼻	從○○獄	50-13	○○○○○爲增上緣 12-12
	墮○○大地獄中	32-14 33-1	○○○○○
	他方○○大地獄中	33-2	阿彌陀佛 念○○○○ 34-2
	百千○○大地獄	33-2	憶念○○○○ 35-1
阿毗跋致	菩薩求○○○○	1-3	見彼○○○○ 37-2
	求○○○○爲難	1-5	即見○○○○ 41-7
	正定即是○○○○	1-10	觀察○○○○ 41-11
阿彌陀	何故號○○○	5-1	見○○○○ 65-2 65-12
	是故號○○○	5-2	見○○○○時 65-2 65-6
	故名○○○	5-2	禮拜○○○○ 82-4
	正覺○○○	16-11 17-2 43-5	讚嘆○○○○ 82-8
		53-3	阿彌陀佛國 願生彼○○○○○ 7-13 21-9
	造○○○讚	19-5	○○○○○有无量 27-12
	○○○安樂國等	19-7	略說彼○○○○○土 56-6
	正覺○○○不思議	53-5	阿羅漢 ○○○既未得 19-13
	正覺○○○善力住持	53-5	癡 瘖○苦 61-12
	正覺○○○善住持	53-10	癡人 譏言○○ 20-10
阿彌陀如來	依○○○○○	34-8	哀 ○哉衆生 8-3
	見○○○○○	36-9	愛 誰○功德 28-1
	禮○○○○○	38-6	我○福德 28-2
	用准○○○○○	23-12	是故言○ 28-4
	共見○○○○○	31-5	從○佛功德起 80-2
	專念○○○○○	40-10	愛欲 以○○故 10-2
	聞彼○○○○○	58-13	愛樂 ○○佛法味 17-8 17-12 18-1
	○○○○○讚	4-9	54-4
	○○○○○名號	5-1	增上○○ 22-9
	○○○○○法王	12-11	○○功德 27-14
	○○○○○莊嚴	21-12	愛作 事同○○ 48-9
			有菩薩字○○ 48-10
			隘 土田逼○ 9-5

惡	不作○	40-6
	止一切○	40-11
	身口意○	40-12
	若善若○	62-1
	五○十○	79-8
	五逆十○	31-14 32-9 33-12
		34-3
	十○五逆	32-11
	遇○因緣	27-5
惡業	以○故	31-14
	善○緣	50-10 50-13
惡道	應墮○○	31-14 33-13
惡人	无願○○	1-7
安	物○於外	25-9
	○有願生佛土之理	33-3
	○可思議	47-13 50-4 50-14
		52-5 53-1 54-11
	无○衆生心	76-8 76-9 79-5
		80-3
	○得榆柳耶	40-9
	黃鶴持子○	17-1
	○清淨心	77-10 79-11
安慰	種種○○	32-1
	方便○○	34-5
安悅	○○之情	13-14
安心	修行○○之宅	81-11
安詳	○○徐逝	49-13
安穩	菩提是○○	77-12
安穩道	諸佛○○○來	37-14
安樂	願生○○	4-3
	其○○義	5-11
	○○大清淨處	8-4
	○○是菩薩慈悲	8-13
	○○報	15-9
	○○相續	18-6
	得生○○	18-12
	彼土生○○	33-4
	以○○性	43-13
	生○○衆生	47-2
	名曰○○	50-4
	彼國土清淨○○	52-14
	往生○○	65-12
安樂國	彼○○○	8-7
	○○○中光明	12-10
	○○○爲正覺善持	17-1

	阿彌陀○○○	19-7
	○○○處	19-8
	○○○不生	20-3
	○○○既无二乘	20-6
	觀○○○	27-9
	生○○○	31-5
	願生○○○	3-10 5-11 57-5
	往生○○○	31-4 31-9
	○○○清淨	28-6 28-14 68-1
安樂國土	言○○○○	2-11
	以○○○○	10-11
	○○○○光明	16-1
	得生○○○○	37-1
	往生○○○○	40-4
	彼○○○○	54-1
安樂淨土	○○○○如來別號	1-12
	即曰○○○○	10-8
	○○○○諸往生者	10-10
	○○○○從此大悲生故	11-1
	○○○○是无生忍菩薩	12-11
	○○○○之名	16-7
	○○○○不應有二乘	19-10
	往生○○○○	33-14
	入○○○○門	37-7
	阿彌陀如來○○○○	42-5
	人一生○○○○	53-8
	彼○○○○雖復廣大无边	11-6
	彼○○○○爲正覺阿彌陀	53-5
	彼○○○○爲阿彌陀如來	75-7
	願生○○○○	65-2
	願生彼○○○○	2-13 75-5
安樂世界	彼○○○○清淨相	8-7
	觀彼○○○○	36-9
	得生○○○○	82-5
安樂土	名謂○○○名	16-7
	二者彼○○○	40-11
安樂佛國	共同生彼○○○○	75-1 75-13
安樂佛國土	彼○○○○○	78-4
安樂佛土	示○○○○不可思議性	43-7
	彼○○○○亦如是	43-13
	生彼○○○○	58-10
安樂寶土	遍○○○○	23-4
安立	各各○○	52-5
按	足指○地	55-11
案	謹○龍樹菩薩	1-3

	○王舍城所說无量壽經	19-3
		31-10 75-3
	○此問詰訓	23-10
	○此而言	31-12
	○十地經	65-5
	○此經	66-2
暗	闇○佛語聲	28-3
闇	愚癡所○	15-14
	除癡○	15-14
	一目○比丘	28-1
	○豈得	34-6
	无明黑○	38-13 52-9
	室穴中○	38-14
	應能破○	39-8
	不能破○	39-9
闇室	千歲○○	34-6
闇宅	流轉之○○	8-12
闇冥	除世癡○○	15-12 16-2 52-7
	能除世○○	16-1
		↑
已	論議而○	2-5
	若○生若今生	9-10 46-8
	訖○化去	18-1
	生○復生	22-4
	聞○歡喜	32-6
	存至宗而○	37-12
	生彼土○	42-5
	隨學足○	51-14
	花用○訖	51-14
	无有窮○	61-7
	既知座○	66-13
	八句次第成○	67-4
	菩薩○自成佛	75-11
	入淨土○	81-11
	入衆數○	81-11
	入宅○	81-12
	修行成就○	81-12
	表服膺事○	87-9
已下	論曰○○	2-9
	此○○	7-12
	此句○○	7-13
	○○是解義中	70-9
已還	七地○○	64-14

已彰	○○於前	40-1
	○○前偈	59-10
已上	八地○○	64-8 68-5
	初地○○	64-14
已盡	火祿○○	75-12
已來	曠劫○○	34-1
以	○示義意	1-6
	但○信佛因緣	1-9
	○佛名號爲經鉢	1-13
	○此間本无佛	2-2
	○入佛法相	2-5 6-12
	但○女名	2-6
	偈○誦經爲搃攝	2-9
	論○釋偈爲解義	2-9
	○五言句	2-14
	若○此推	4-12
	○如來即真實功德相	6-14
	○少攝多	7-8
	○如此因	8-8
	○如此果	8-8
	○廣大无际	9-9
	○眇眇爲喻	9-13
	○愛欲	10-2
	○攀厭禪定	10-3
	○无上正見道	10-4
	○安樂國土	10-11
	○諸法平等	10-13
	○是故起	11-5
	○涅土爲宮飭	11-9
	○木石爲華觀	11-10
	○此故興大悲心	11-10
	○不同故	12-2
	高下○形	12-3
	是非○起	12-3
	故○爲喻	13-6
	當○其嵐然藁諺	13-7
	○草目之耳	13-8
	欲○服飭布地	15-5
	欲○香華名寶	15-6
	何故○爲言	15-8
	○雨爲喻	15-8
	○光明爲佛事	16-1
	多○梵爲讚	16-6
	恥辱緣○抱水	17-6
	○佛法○禪定○三昧	17-11